滞　英　記

岡　本　功*

私は1971年9月から1973年8月末まで二年間マンチェスターに滞在する機会を得ました．滞英中既に水沢の方から月報の原稿を依頼されていましたが，生来の筆不精で伸び伸びになっていたのを，遂に覚悟を決めて思いつくままに駄文を認める次第です．

現在日本はアラブ産油国の輸出制限で四苦八苦しているようですが，やっと「友好国」扱いを受けられるようになってややホットしている所と思われます．この点イギリスは非常に現実的で抜け目なく，中東紛争の元凶でありながら，最初からフランスとともに「友好国」扱いを受けています．にもかかわらず，イギリスは頻発するストのためにその斜陽傾向に拍車が加えられています．実際GNPを重ずる日本では考えられないような大きなストが基幹産業で長期に渡って続きます．現在でも（1月末）炭鉱夫達が政府の所得政策の物価・賃金凍結令に対してストを続けており，電力事情は最悪の状態にあるようです．というのは，イギリスの電力は殆んどが石炭を燃やす火力発電によるものだからです．最近の新聞では電力カットのためローソクで事務を取ったり，政府が総選挙に訴えるかもしれないなどということが報道されています．

1972年の始めにも今回と同様の炭鉱ストが三カ月ぐらい続きました．私が通っていたマンチェスター大学の数学科のビルは18階の塔のようなモダンな建物で，大学の建物のなかでもユニークな存在です．私は13階に一室もらっていましたが，ストの際中は停電のためエレベーターが動かないことが多く登り降りが一仕事でした．今回も数学科のスタッフ達にとってはよいトレーニングになることでしょう．1973年の冬にはガス関係の労働者のストで台所や暖房にガスを使っている家では大きな影響を受けました．1971年の始めには大きな郵便ストで連絡が三カ月も途断えたこともありました．小さなストは枚挙に遑がありません．しかし，頻繁に行なわれるストにもかかわらず，この国の人々は革命を起して社会体制を根本的に変えてしまおうという気は毛頭ないらしく，現体制のなかでいかに沢山の賃金を獲得するかに汲汲としているように見えます．一般の庶民もストに慣れていて忍耐強く辛抱しています．イギリス人の忍耐強さはその国の風土からくる国民性なのかもしれません．

マンチェスター大学は市の中心から1マイルぐらい南で，オックスフォード道路を挟んで両側に広がっています．この大学には天文学科があって教授にはコパール，カーン，講師陣にはミーバーン，ジェームスなどがいます．ここには東京天文台の北村さんや関口さんが滞在されたことがあって，天文月報（第58巻，p. 173）には北村さんの紹介記事があります．数学科ではメステル教授，スチュアート，モスが天体物理のスタッフです．日本では数学科といえば純粋数学と応用といっても函数解析など純粋に近いことをやる人しかいませんが，こちらでは自然科学，人文科学で数式数字がでてくる学問は広い意味で数学と解釈されて数学科，応用数学科などでそれぞれの専門を研究しています．ここの数学科のスタッフ約60人のうち純粋数学をやるのは1/3ぐらいです．イギリスでは天文学の分野でも（応用）数学科に籍を置いている有名な人がかなりいます（例えば，ジェフリーズ，カウリング，メステル，ロックスバーグなど）．私はメステル教授の所で自転星の磁気制動とかパルサーの磁気圏などの勉強をしました．メステル教授は昨年10月からサセックス大学の天文学センターへ移りましたので，ここの数学科での天文学はやがて衰退するかもしれません．イギリスの大学のなかで全体のレベルとしてはケンブリッジ，オックスフォード，エジンバラ，ロンドン各大学の次ぐらいにランクされているようです．個々のスタッフのなかには優秀な人は沢山いますが立派な業績を挙げて名が高まるとケンブリッジなどへ移っていくようです．

電波天文学で有名なジョドレル・バンクは大学から車で一時間ぐらい南へ下ったところにあります．かっては世界一の電波望遠鏡を誇っていましたが，今では西ドイツのボンに御株を奪われています．台長は，マンチェスター大学物理学科の電波天文学の教授でもあるサー・B．ラベルですが，彼は面子にかけても世界一のタイトルを取返すということで今ウェールズに計画中でかなり具体化しているようです．しかし，自然の景観を損うとか住民の生活に色々の制約が加えられるとかで反対運動も盛んですが，インフレで必要経費の見積りがどんどん膨んでいくのが最大の悩みであるとか聞きました．私が滞英中の天文学界の大きな話題の一つはF・ホイルがケンブリッジを飛出してどこへ行くかでしたが，結局ラベルが骨折ってマンチェスター大学の物理へ落着きました．マンチェスターはホイルが来る前でも天文学に関してはイギリスの一大中心地でしたが，ホイルが来てからは天文

* 緯度観測所

を志す学生はケンブリッジよりもマンチェスターへ来るようになったといわれています．ラベルとホイルはそれぞれ 1969—1971，1971—1973 の期間英王立天文学会の会長を勤めました．現在の会長はオックスフォードのブラックウェルです．

1971年5月に盛岡で地球自転に関する IAU シンポジウムが開かれましたが，これにケンブリッジからサー・ジェフリーズ，レディ・ジェフリーズが出席されました．日本の天文学者には馴染が薄いかもしれませんが，サー・ジェフリーズは地球物理界の大御所で地球自転運動論を通して緯度観測とも関係が深い方です．偶然かもしれませんが，緯度観測所木村初代所長の翌年にゴールドメタルを授与されています．シンポジウムの間に私がメステル教授を通じての孫弟子ということがわかり，またレディと私の妻が意気投合して，滞英中色々お世話になりました．心細い初めての外国暮しではお二人の存在は私達にとって精神的にも実際的にも助けになりました．

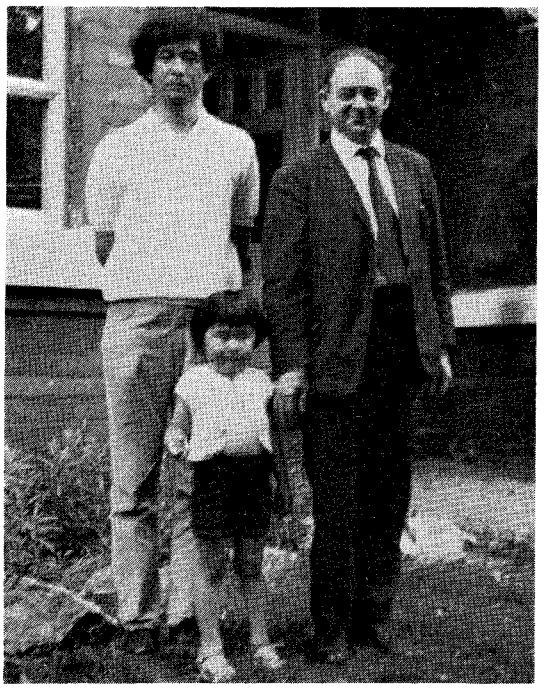
マンチェスターは The British Isle のほぼ中央にあってイギリス各地を旅行するには最も都合のよい所にあります．その東側にはピーク地方といわれるヒースに覆われた丘陵地帯がほぼ南北に続いており，ロビンフッドの洞窟とか彼の名前を冠した旧跡などが残っています．丘陵地帯は北側でエミリ・ブロンテの小説「嵐が丘」の舞台となったヨークシャー・モァの原野に連なっています．マンチェスターは内陸の都市ですが，リバープールの近くから運河が伸びていますので港町でもあり，町のなかでカモメを見ることもあります．マンチェスターは産業革命以来イギリス工業の中心であり資本主義の勃興地でもありました．経済学史の本を繙けばマンチェスター周辺の地名が沢山出て来ます．現在ロンドン，バーミンガムに続く英国第三の都市です．

かっては世界の産業の中心であり，世界の海を支配した大英帝国も植民地がどんどん独立して行くにつれて斜陽をかこつ身になりました．イギリスの国土は狭く資源も豊かとはいえません．本来なら亜寒帯に属する所をメキシコ湾流に洗われて気温こそ真冬でもマイナスに下がることはそれほど多くありませんが，高緯度のため太陽の恵みをさんさんと受けるわけにはいきません．ここでは太陽は常に斜め上からさして来ますので日中でも日本の夕方のような感じです．また4月中頃から10月末までサマータイムを採用してグリニッジ標準時ではなくヨーロッパ時を使いますので，夏には午後3時頃までが日本の午前のような感じで午後9時頃まで日が射して11時頃まで明るいことがあります．国土はウェールズとスコットランド北部を除いて，全体が平べったい丘陵地帯で殆んどが羊を飼うための牧場地とヒースの生えた荒野で畑は南部の方へ行かないと見られません．国土が豊かでなく自然に恵まれないので自国産の農産物は少ないようです．そのせいか食物はまずく一般の国民は粗食です．普通それぞれの国にはその国名を冠した料理，例えば，中華料理，フランス料理など固有の料理があるものですが，イギリス料理というのは聞いたことがありません．typically English といえばローストビーフ，ヨークシャープッディグに牛乳をたっぷりと入れたティーといった所です．かっては世界を制覇した国ですから世界中の料理が自分達の料理だと思っているのかもしれません．皆んな集って食べに行くときも殆んど中華とか外国料理です．一般にイギリス人は舌痴といっていいくらいですが，やたらと甘いものが好きです．日本では食後は果物ぐらいしか食べませんが，ここではディザートはたいていケーキ，それも大抵甘たるい代物です．またふだんでもアメ玉やチョコレートをよく食べます．ここでは一年の気温の変化がそれほどなく真夏でも熱くないせいかビールは殆んど冷さないで生ぬるいものを飲みます．ここでは大陸系のラガーからエール，ビター，スタウト等銘柄が豊富です．日本のように味に大差のない大手メーカーが市場を支配しているのではなくそれぞれ独特の酷のあるメーカーが沢山あるようです．その他1965年からワインとビールの自家醸造が出来るようになって趣味と実益を兼て自分の好みのものを造れるようになりました．もちろんそれを売るためには税金を払わなければなりません．

ケンブリッジのジェフリーズ夫妻宅前にて
(1972年3月)

長期にわたる外国滞在の場合日本食品がどの程度手に入るかということは大事なことです．イギリスではロンドンに日本食料品店が 2，3 軒あってメールオーダーで

買えますがかなり割高で，必需品はまとめて日本から直接送ってもらった方が安くつきます．米はオーストラリア産のものが日本米とよく似ていて食べやすいです．こちらでは金曜日が魚類を食べる日になっていてこの日に店に行くと新鮮なものが手に入り，イカの刺身やシメサバなどで日本の味を慕うことができます．しかし種類はパリの魚屋ほど豊富ではありません．野菜や果物は殆んどが輸入ものでスペイン，オランダ，フランス，デンマーク，イスラエルなどからくるものが多いようです．日本産やスペイン産のミカンが Satsuma（薩摩の意，複数にはsがつく）という名で売られているのには驚きました．この発音は非常にむつかしく八百屋で二，三度でわからせることは困難です．リンゴの木は殆んどの家の庭にありますが手入れが悪くちっぽけなのが沢山なっています．店でも地元産のものを売っていますが，日本ではとても売物にならないようなものばかりです．キューリ，ナスビはバカでっかくカスカスでタネの大きい代物ですが，トマトは反対に小さく鶏卵大の貧相なものです．ホーレン草は大きい葉をバラバラにして売っています．白菜は中国人の店でチャイニーズ・セロリという名で売られています．大根はロンドンの日本食品店できれいに洗われてかなり萎びた細いものを見かけるだけです．イギリス人は日本酒はサケという名で知っている人が多いですが実際に飲んだことのある人は少なく飲ませてやると珍らしがって喜びます．



マンチェスターのメステル教授宅前にて
（1973年8月）

イギリスの国土は南部地方を除いて殆んどが牧草地ですが，かなりの部分にワラビがはびこってその駆除対策に苦慮しているようです．実際春たけなわの5，6月頃になりますとピーク地方，ウェールズ，湖水地方の牧草地のある部分はさながらワラビ畑の観を呈します．私達はこの時期には三度の食事にもワラビを食べたり，塩づけにして保存したりしました．ロンドンの日本食品店には日本から輸入された高価なビン詰めのワラビが並べてありますが，反対にイギリスのワラビを加工して日本に輸出すれば一石二鳥になるのではないかと思います．知合のイギリス人に料理したものを食べさしたらおいしいといって食べてはいましたが，自分達で料理してまでは食べようとはしませんでした．ウェールズ・バンゴール大学の生化学のある教授によれば，日本やウェールズ，それにアメリカインディアンに胃ガンが多いのはワラビを食べるからだそうです．日本人やインディアンはワラビを生のまま食べ，ウェールズ人は牛乳を通してワラビの毒素を摂取するからだそうです．その教授は日本の専門家ともコンタクトがあって彼等の文献や自分の論文などを送ってきました．私はカセイソーダーや灰を使ってどのようにワラビのにがみを取除いて食べるかを説明して，日本人がするようにして料理したワラビで動物実験した後でないとワラビと日本人の胃ガンを結びつけるのは早計であるといってやったら，その通りである，そして必ずソーダーで中和してから食べるべきであるといって来ました．

イギリス人の風俗習慣を知り，滞在を楽しむためには趣味の合ったよい友人を見つけることが肝心ですが，私の場合には数学科に山をやる人が沢山いてその点でも恵まれていました．学問上の友人よりもそちらの友人の方が多く，そのスポーツの性格上よく共同生活をしますのでイギリス人を観察するのによい機会がありました．

一般にこちらの家のなかは土足のまま家に入るということを考慮してもなお薄汚く感じます．その汚なさはこの国での女性の社会的地位，活動度に比例するようです．家事の責任はもちろん主婦が持つのですが，それを実行する場合には奥さんが旦那を始めとして男の子にやらせるわけで日本の主婦の細やかな行き届いた家事に比ぶべくもありません．食後の皿洗いはまず旦那か男の子の仕事ですが，洗剤をたっぷり入れたドブ水のような汚いお湯で洗うと水洗いもよくせずに雑布のように汚い布で一生懸命磨きます．これは昔銀食器を使っていたなごりなのか，洗うよりも磨く方に重点があるように見えます．家庭内の出来事に関しては奥さんが絶対的権威を持っていてたとえ姑といえどもかなわないようです．こちらの母親は一刻も早く自分の子供達から解放されて職を見つけるなり自分の趣味を生かすなりして，社会的活動を重

んじます．男性よりも女性の方が議論好きで闘争的です．BBC のテレビでは華やかなミスワールドコンテストの実況中継の直後の番組でウーマンリブの闘士を集めて喧々諤々の討論を放送していました．

親しくしていた数学科のスタッフの一人が北ウェールズのスノードン山の近くにコテジを持っていましたのでそこへはたびたび出かけました．スノードン山は1085メートルでアルプスや日本の山々にくらべれば箱庭のような感じですが，海抜近くから登りますし，道路もよく発達して車を降りてすぐ岩場に取付けるのも魅力です．冬には雪も降りますが，日本の晩秋の山々といった感じで気軽に楽しめます．ルートも重箱のすみをつつくように沢山拓かれていてグレードも決められています．一部の専門家を除いて正統派のフリークライミングで自然の岩の特徴を利用し技術やバランスを重んじ，安全確保のための最小必要限の登攀道具しか使いません．日本の山のように藪がほとんどないのですっきりした岩場が楽しめます．マンチェスターからスノードニアまで車で3時間ぐらいですが，マンチェスターから東へ1時間も行けばピーク地方で丘歩きや手軽な岩登りが楽しめます．モーターウェイで北へ2時間も行きますと湖水地方へ行けます．私が最初にワラビを発見して喜んだのもここでした．ホイルはここにコテジを持っているそうです．イギリスでも過疎現象があって辺鄙な地方から都会へ人口が流れ出しているそうですが，自然愛好家や山好きのイングリッシュが入り込んでくるようです．スコットランドのエジンバラ，グラスゴーまで5時間，更に北上して山岳地帯へ入り3時間も行きますとイギリス最高峰のベン・ネビス（1344 m）の麓フォート・ウィリアムスに着きます．私達は更に足を伸してスカイ島まで行き海辺で一週間テント暮しをしました．小さな島であるのにかかわらず千メートル近い山々が連なって絶好の山歩きや岩登りが楽しめます．このあたりまで避暑にくる外国人が割合多く特にドイツ人が目につきました．ここまでくると地のはてという感じがします．高緯度のため夜が短かく朝4時頃夜が明けて11時まで明るいので活動時間はたっぷりあります．昼間奥さん方が出歩いている間ベビーシッターをしていて，夕食後男どもでワンルートやりに行くこともできます．海水は非常に冷たいですが泳げなくはありません．このとき一緒に行っていた大学スタッフのマルキスト達は月と太陽が殆んど同時に西の山波へ沈んでいくのを見てとても不思議がっていました．というのはこの時がアフリカ日食の10日ぐらい後だったからです．帰りはベン・ネビスやケンゴーンなどを登り怪獣で有名なネス湖などを見に行きました．

私達はオースチン1100ccの中古車を使っていました．この車はスイスまでの往復やウェールズ，スコットランドなどを旅行したときに愛用した車でしたが，帰国のためマンチェスターを離れる10日ばかり前知人の家の前に駐車していたところ夜のうちに盗まれてしまいました．私達はこのとき既に住んでいたフラットを引払って，夏休みの間ウェールズのコテジで過す知人の家を借りていました．そして車が盗まれたとき彼等は所用で戻っていて私達と同居していたのです．朝，私が車がないのを発見してまず奥さんに話したらすぐに，旦那がどう思うか聞いてみようといいます．その結果私達は非常にラッキーだということになりました．というのは二カ月前ウェールズからの帰り道に事故に巻込れて追突で車の前部がかなりいたんでいました．その上M.O.T.（車検のこと）が切れていました．売っていくためにはM.O.T.にパスしなければならないし，それにはかなり大幅に修理しなければならないこともあって，残りの滞在日数も少なくなっていましたのでやむ得ずスクラップにでもしょうかと思っていたところでした．スクラップにすればせいぜい10ポンドぐらいの代物でした．イギリス人はこういうことに対しては非常に抜け目がありません．彼等は私の車の状態を熟知していましたから盗まれたと聞いた途端見つからなくて保険金をもらった方が得だということがすぐに頭にひらめいたようです．すぐ警察に電話したら盗難車は90%が3日以内に発見されるということでしたが，幸いにも私達の残りの滞在中は発見されませんでした．

半月ほどパリに滞在した後ロンドンに戻って最後に離英する2日前お別れをするためケンブリッジにジェフリーズ夫妻を訪ねました．そのときの話題の一つとしてレディーが，使っていた車は売って来たのかと尋ねられました．というのは以前夫妻がマンチェスターに来られたときやケンブリッジで私の車に乗せたことがあるからです．私達は言うのをはばかられましたが，実は盗まれましたと正直に話したらあたかも自分達の責任であるかのように絶句しておられました．滞英生活の最後になってこんな目にあってイギリスでの印象を悪くしたのではないかと心配されたのかもしれません．私達としては盗まれて見つからない方がよいのだと説明したら少しホットされた様子でした．離英する前夜始末を頼んできた知人に電話したら不運にも発見されたということでした．帰国して3カ月ばかりして保険会社から盗難期間中のダメージに対する補償として50ポンド送って来ました．私達は追突で中破した前部を無細工でありましたが多少修理していました．知人がそれを犯人がぶっつけてしかも修理しようとしたという風に保険会社をうまくいいくるめてくれたようです．私の愛車はそのままスクラップにされてその一生を終りました．

仕事の方はともかくとして，ジェフリーズ夫妻を始めとしてよき知人に恵まれ楽しく過せた2年間でした．